

明日を招く

旭川市立東陽中学校学校通信No.7
令和4年10月31日発行
発行責任者 片原俊光
編集者 藤原 聡
0166-34-3047
<http://www.asahikawa-hkd.ed.jp/toyo-jhs/>

多様性

大雪の山並みも、麓近くまで白くなってきました。通りを車で移動しているとイチョウの葉や白樺の葉が風で舞っていることもあります。イチョウの葉で思い出すのは、学生時代に秩父宮ラグビー場で行われていた大学ラグビー対抗戦を観戦しに行った際に、最寄駅から徒歩で向かう途中にあったイチョウ並木です。落ち葉がまるで絨毯のように積もった道を歩いたことを思い出します。丁度、自分が座った席から隣の神宮球場が見え、当時大学生だった元日本ハムの西崎投手が、マウンドで投げている姿を遠くから見る事ができました。また、それほど大きくないスタジアムとはいえ、芝生のグラウンドでプレーができる選手を羨ましく思いました。当時の自分たちの練習環境や試合環境は土の上でしか行えなかったからです。



先日、ニュージーランドオールブラックスが来日し、日本チームとテストマッチを行いました。日本は惜しくも敗れてしまいました。前キャプテンのリーチマイケル選手が、記者会見で「このチームにはいろいろな国の人がいるので、ダイバーシティなところもしっかりと見せたい。」と日本語で述べていました。きっと、ただ単にいろいろな国の人間で構成されているという意味ではなく、日本のラグビーを築き上げてきたのは、多様な人々の手による多様な考えや方法であると言いたかったように思います。

そう言えば、最近よく見聞きする SDGs（持続可能な開発目標）実現の一環としても、誰一人とり残さない理念のもと多様性の尊重が謳われています。

本校のスクールカウンセラーの佐藤先生から出されたカウンセラー通信にも「多様性」についての記載がありました。多様性を認めるとは、違いを認め相手を受け入れること。思いやりの心を持ち相手を理解しようとする事だそうです。そこには、多様性を認めるための方法についても触れられています。「I（私）」を主語にして話すこと。「みんなが〇〇と言っている」などのように「みんな」を主語としないことが大切と書かれています。「みんな」という同調圧力が多様性を否定することにもつながってしまうからだそうです。

学校生活においても、互いの違いを認め、理解しようとする事の大切さに気づき、自分事として考え、行動できる皆さんであってほしいと思います。また、東陽中学校にはそれを支える教職員がいますので、そのお手伝いができるように体制を整えていますので、そんな東陽中であってほしいと願っています。



生徒総会

10月14日（金）に生徒総会が行われました。
ステージ上には、このように各専門委員長が着席しています。

そして、それぞれの委員長に手元には
タブレットが置かれています。



以前は、紙ベースで「議案書」を作っていましたが、ひとり1台の端末が導入されてから、データでの議案として活用しています。それぞれの授業でも活用が進められているところです。ただ利用するだけでなく、プログラミング自体を学習することや、プログラミング的な思考についても生徒が身に付けていく資質や能力となっていきます。

つい忘れがちになる時もあるかと思いますが、手洗いで
しっかり感染症予防に
努めましょう。



本校の3年生と保護者向けに進路説明会が行われました。市内の私立高校や道立高校、工業高等専門学校を受験にかかわるものが主な内容です。この説明会が終わると、いよいよ受験シーズンも本格化してきます。

がんばれ3年生！

11月の主な行事予定

1日(火) 進路説明会
3日(木) 文化の日
10日(木) 学力テスト(全学年)
11日(金) 数学検定
15日(火) 教育相談(1・2年)
15日(火) 三者懇談(3年)
~22日(火)

23日(水) 勤労感謝の日
24日(木) 中間テスト①(1・2年)
25日(金) 中間テスト②(1・2年)
29日(火) 専門委員会

※状況により変更になる場合があります。